

田辺城跡第 35 次発掘調査 現地説明会資料

遺 跡 名	田辺城跡
遺跡の時代	安土桃山時代～江戸時代
遺跡の種別	城跡(平城)
調 査 場 所	舞鶴市字北田辺 51 番地付近 (旧市民会館跡地)
調 査 期 間	令和7年6月9日～8 月上旬(予定)
調 査 機 関	舞鶴市
調 査 目 的	公共施設建設に先立つ範囲確認調査
調 査 面 積	約 100 m ²
主な検出遺構	堀、石垣
主な出土遺物	瓦、土師器、陶磁器類、木製品など

【はじめに】

田辺城は、安土桃山時代に織田信長に仕えた細川^{ふじたか}藤孝(後の^{ゆうさい}幽斎)が築城しました。築城時期を明確に示す史料はありませんが、10 年程の歳月をかけて天正 19(1591)年頃には完成したとみられています。また、慶長 5(1600) 年、各地で勃発した関ヶ原合戦の前哨戦の一つに数えられる「田辺籠城戦」の舞台として知られます。その後、京極氏、牧野氏と城主は変わりましたが、明治維新による廃城令により取り壊されるまでの約 280 年もの間、修繕が続けられながら城下町と共に政治・経済の中心として存在しました。

田辺城の遺構は歴代城主で区分し、

- (1)細川期【天正 9(1581)年頃～慶長5(1600)年】
- (2)京極期【慶長6(1601)年～寛文8(1668)年】
- (3)牧野期【寛文8(1668)年～明治4(1871)年】

の3期に分けることができます。このうち、京極期の大改修によって今日知られている田辺城の輪郭が整備されたとされています。調査地は、公共施設の建設に先立って実施しており、調査地は田辺城の絵図によると三ノ丸石垣に該当し、南の大手門へ続く石垣の存在が予想されました。今回はその石垣を確認することを主目的として調査を実施しました。

なお、調査現場は説明会終了後に埋め戻し、遺構を十分に保護した上で開発されます。

【今回の主な調査成果】

- ・延宝期の絵図と一致する L 字状の石垣を確認した。
- ・17 世紀後半に行われた田辺城の修復の様子を確認することができた。

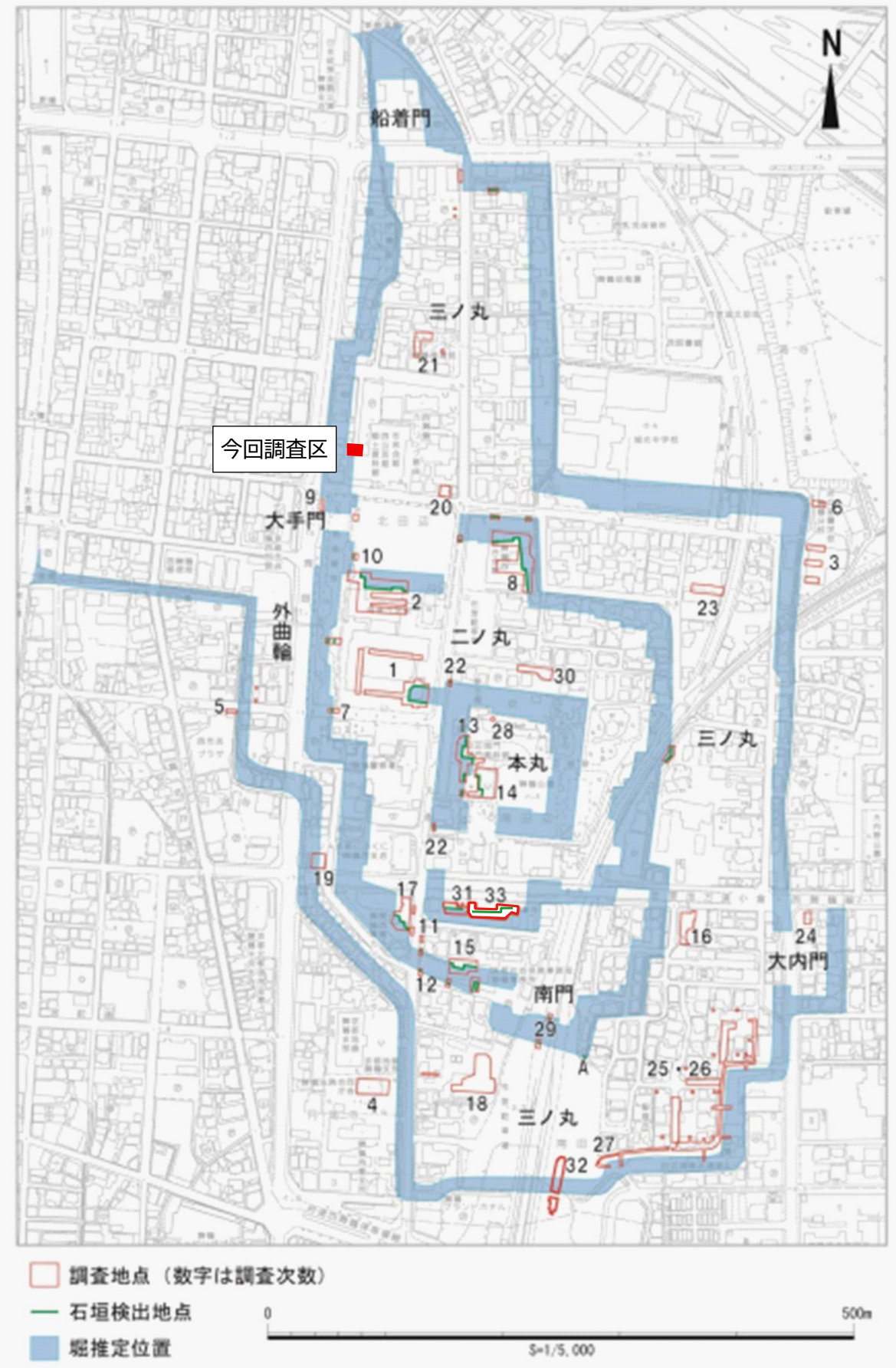


図1 田辺城の縄張り調査地点(縄張は京極期以降のもの)

【検出遺構】（図2、写真1）

今回の発掘調査で堀、石垣などが確認されました。

石垣

堀に面して東西方向の石垣（約 10m）と南北方向の石垣（約 1m）を確認しました。南北方向の石垣はこれより南側は確認できず、後世の開発によって抜き取られたものと思われます。石垣全体の上部も後世に石材が抜き取られており、本来の高さは不明ですが、石垣の残存高は約 1.6m～1.7mを測ります。石材は花崗岩が使用されており、角度は約 75 度と急な勾配で直線的に石垣が積まれていました。東西方向の石垣から、横約 1.1m、高さ約 1.3m、奥行き 0.4m を測る石材を 1 石確認しました。

また、東西石垣において石材の加工については以下の2つに分けられます。

（石垣①）…自然石を使用。基底から 2 段目までの石垣。

（石垣②）…石を割って整形した石垣を使用。割った面が見えるように石垣の表に置く。3段目から上の石垣。

細川期の田辺城の絵図には東西石垣が確認できないこと、石垣の積み方や、加工の様子などから基底から2段目までの石垣（石垣①）は京極期の石垣と考えられます。

また、1681（延宝9）年の田辺城の修復図（図3）では、今回の調査箇所で「此所2間崩、高サ2間」の記述があり、2段目より上の石垣（石垣②）は牧野期に修復された石垣と考えられます。

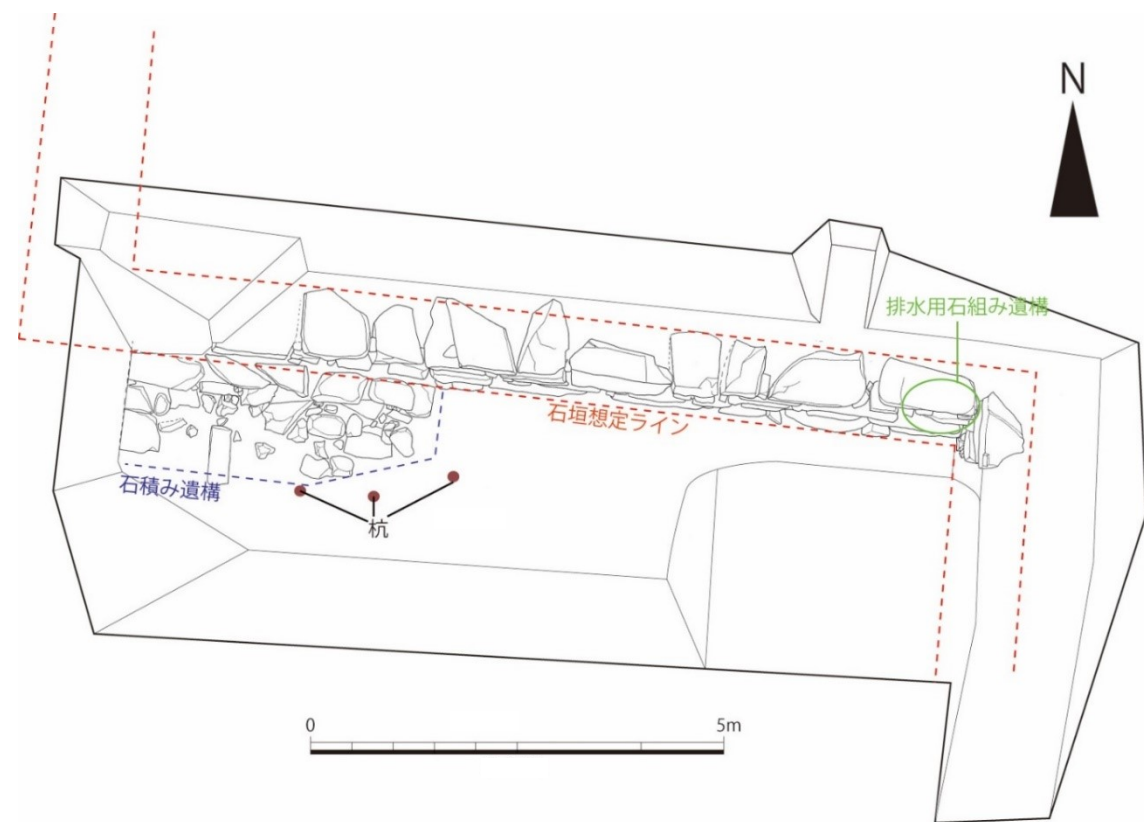


図2 調査区平面図

石組み遺構

石垣の屈曲部付近から石組みの排水遺構が確認されました。左右には幅約 0.2m、高さ約 0.3mに整形された石材が置かれています。排水口は約 0.3mの大きさです。標高は、-0.3mの位置にあります。牧野期に城内側から掘へ排水するために設置されたと思われます。

石積み遺構

調査区西側に本来の石垣前面を覆うよう石材を積み上げた遺構を確認いたしました。粘土質の土を盛り、石材の大きさは 0.1m～0.8mとばらつきがあり、自然石を使用しています。石積み遺構南端には、直径約 0.1mの木製の杭が打たれており、石材が崩れるのを防止する石留めの役割があったものと思われます。

東西石垣の西側の屈曲部付近まで続いており、石垣の中で強度の弱い屈曲部、特に石垣の基底部に石を置くことで、強度を上げ石垣が崩れなくすることを目的に積まれたものと思われます。

（謝辞）今回の発掘調査を実施するにあたり、以下の方々からご指導、ご協力を頂きました。記して感謝いたします。（敬称略）

北垣聡一郎（金沢城調査研究所名誉所長）、森島康雄、加藤雄太（（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

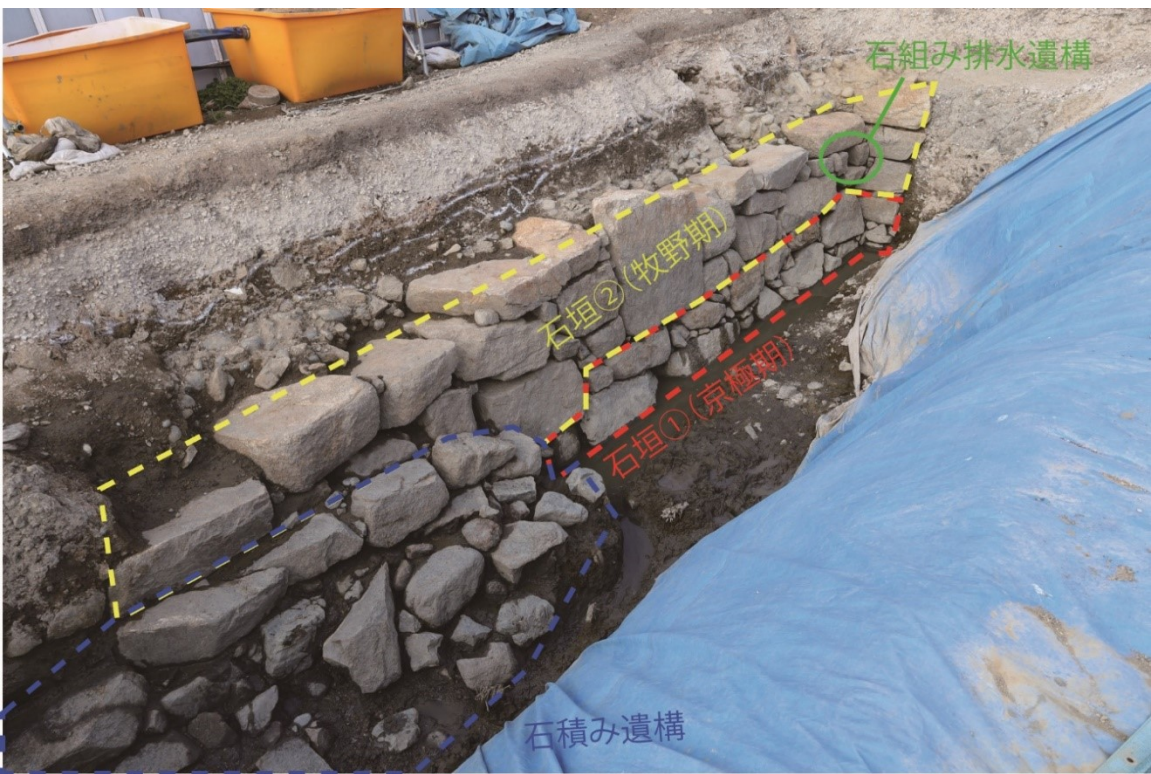


写真1 調査区全景

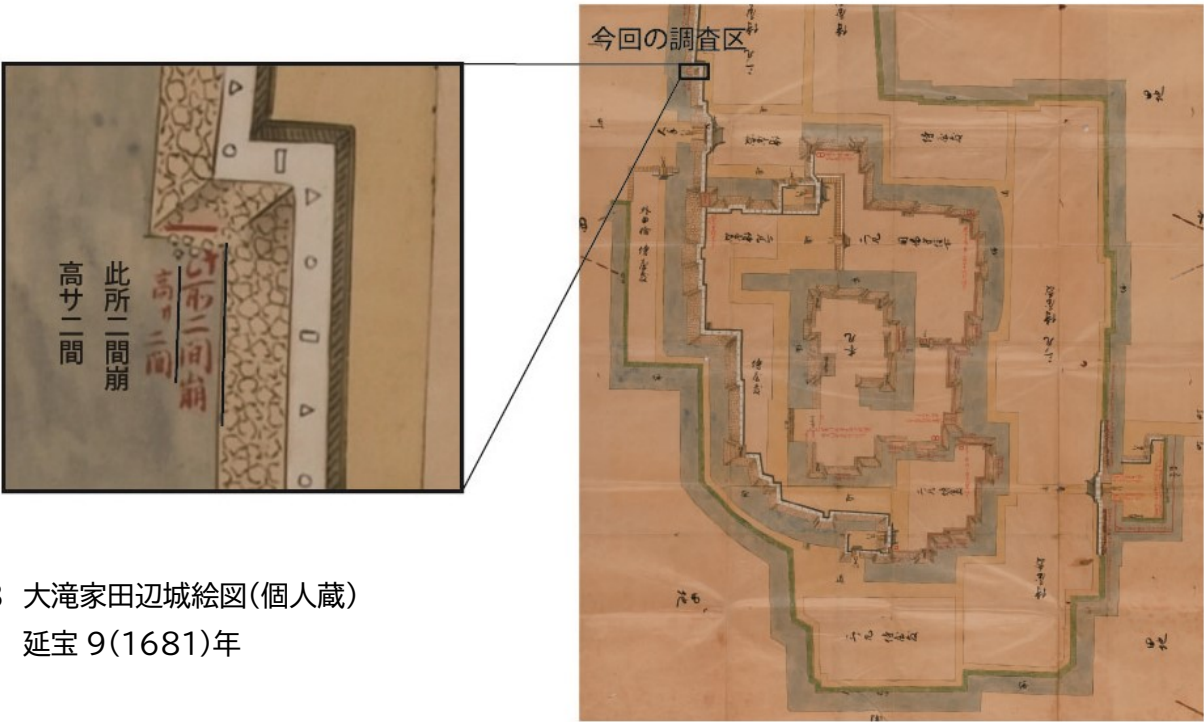


図 3 大滝家田辺城絵図(個人蔵)
延宝 9(1681)年

表1 田辺城 年表

年 号	西 暦	主 要 事 項
天正 4	1 5 7 6	織田信長、安土城を築城する。
天正 6～7	1 5 7 8～7 9	信長丹後攻略を命じ、細川藤孝・明智光秀両軍で丹後守護一色氏を攻め、中山城の合戦で一色義道討死する。
天正 8	1 5 8 0	8 月、細川藤孝が信長から丹後国主に命じられ入国、宮津八幡山城に入り光秀の協力を得て宮津城の築城を開始する。
天正 9	1 5 8 1	宮津城完成 (12 月ごろ)。丹後国天正検地終了 (110,700 石)。次いで田辺城の築城にとりかかる。
天正 1 0	1 5 8 2	6 月、本能寺の変で信長自殺。藤孝剃髪して幽斎玄旨と号し、丹後国を忠興に譲る。田辺城普請本格化。
天正 1 3	1 5 8 5	7 月、羽柴秀吉、関白となる。
天正 1 4	1 5 8 6	12 月、秀吉、太政大臣となり、豊臣の姓を受ける。
天正 1 6	1 5 8 8	11 月、田辺新城において能会が催される。
天正 1 9	1 5 9 1	このころ、田辺城完成。
天正 2 0	1 5 9 2	朝鮮出兵 (文禄の役)。忠興参戦。
慶長 2	1 5 9 7	再度、朝鮮出兵 (慶長の役)。
慶長 3	1 5 9 8	8 月、秀吉病死。
慶長 5	1 6 0 0	6 月 27 日、忠興、徳川家康の上杉景勝征伐に加勢し出国する。 7 月 21 日、福知山城主小野木縫殿介ら 1 万 5 千の兵が田辺城を包囲、田辺籠城戦おこる。これに先立ち幽斎は宮津・峰山・久美浜の城を自焼させる。 7 月 29 日、幽斎「古今伝授」をおこなう。 9 月 12 日、勅使が来着、両軍和議成立。田辺城開城。 9 月 15 日、関ヶ原の合戦。忠興は東軍として参戦。 11 月、忠興、軍功により豊前国を拝領。丹後国は京極高知が拝領する。

慶長 3	1 5 9 8	8 月、秀吉病死。
慶長 5	1 6 0 0	6 月 27 日、忠興、徳川家康の上杉景勝征伐に加勢し出国する。 7 月 21 日、福知山城主小野木縫殿介ら 1 万 5 千の兵が田辺城を包囲、田辺籠城戦おこる。これに先立ち幽斎は宮津・峰山・久美浜の城を自焼させる。 7 月 29 日、幽斎「古今伝授」をおこなう。 9 月 12 日、勅使が来着、両軍和議成立。田辺城開城。 9 月 15 日、関ヶ原の合戦。忠興は東軍として参戦。 11 月、忠興、軍功により豊前国を拝領。丹後国は京極高知が拝領する。
慶長 6	1 6 0 1	3 月、信濃飯田から高知入国、田辺城に入り改修普請にとりかかる。三ノ丸が拡張される。
慶長 7	1 6 0 2	8 月、高知、慶長検地実施 (123,175 石)。
慶長 8	1 6 0 3	家康、江戸幕府を開く。
慶長 1 9	1 6 1 4	11 月、大坂冬の陣。
慶長 2 0	1 6 1 5	5 月、大坂夏の陣。
元和 6	1 6 2 0	12 月、田辺城火災。
元和 8	1 6 2 2	8 月、高知死去し、遺言により丹後国は子高広・高三・高通に分与され、宮津・田辺・峰山の各藩が成立。田辺藩 (35,000 石) は高三が受け継いだが、嫡子高広が田辺城の諸門・櫓等を宮津城に移設したため、田辺城は荒廃する。
明暦 2	1 6 5 6	高三の子、高直が田辺城の再建を幕府に願い出、宮津藩の高広と争論になる。幕府は和議を命じ、高直の田辺領有を承認する。
寛文 8	1 6 6 8	5 月、高直の子高盛が、但馬国豊岡に国替となる。代って、京都所司代を 15 年間勤めた牧野親成 (譜代大名) が藩主となる。
寛文 9	1 6 6 9	6 月、親成入部。このときの田辺城は「矢倉、門、高塀一ヶ所もなし 石垣所々崩れ三ノ丸向こふの石垣東ノ方南ノ方三四ヶ所七八間程宛崩有之」といった状態であったため、幕府に城普請願いを提出、許可される。
寛文 1 0	1 6 7 0	2 月、城門・櫓・石垣・高塀等の再建はじまる。 6 月、再建工事は概ね終了する。
延宝 9	1 6 8 1	本丸・二ノ丸石垣及び土塀崩壊のため修復。
元禄 5	1 6 9 2	三ノ丸石垣、土塀修復。
享保 1 2	1 7 2 7	9 月、田辺城下町大火発生、城の大手門類焼する。
享保 1 3	1 7 2 8	類焼した建物を再建。
天明年間	1781～88	田辺城内三ノ丸に藩校「明倫斎」を開設。
嘉永 4	1 8 5 1	「田辺孝子伝」刊行される。
安政 4	1 8 5 7	野田笛浦によって勸善寮 (高等学問所) と蔵修寮 (学問所奉行と係員詰所) が設けられる。
文久年間	1861～64	明倫斎を明倫館と改称する。
文久 3	1 8 6 3	イギリス船が田辺に入港する。
慶応 3	1 8 6 7	10 月、徳川慶喜が朝廷に大政奉還する。
明治元	1 8 6 8	1 月、鳥羽・伏見の戦い (戊辰戦争)。江戸城開城、東京に改称。
明治 2	1 8 6 9	6 月、版籍奉還、田辺藩を舞鶴藩と改称する。 牧野弼成 (10 代) 舞鶴藩知事になる。
明治 4	1 8 7 1	7 月、廃藩置県 舞鶴藩は舞鶴県に。 11 月、豊岡県に統合される。
明治 6	1 8 7 3	田辺城の廃城が決定。
明治 7	1 8 7 4	田辺城の取り壊し始まる。
明治 9	1 8 7 6	8 月、京都府に編入される。
明治 3 4	1 9 0 1	9 月、心種園碑除幕式。
明治 3 9	1 9 0 6	田辺城跡地、舞鶴町の直轄経営となる。
明治 4 0	1 9 0 7	5 月、舞鶴公園開設。
大正 2	1 9 1 3	4 月、牧野家紀恩碑除幕式。
昭和 1 5	1 9 4 0	12 月、彰古館建設 (紀元 2600 年記念事業)。
昭和 5 6	1 9 8 1	5 月、舞鶴公園整備完成 (田辺城築城 400 年記念事業)。 6～7 月、田辺城跡第 1 次発掘調査実施される。
平成 3	1 9 9 1	1 月 18 日、田辺城城門建設起工式。
平成 4	1 9 9 2	5 月 30 日、まいづる田辺城まつり開催。 5 月 31 日、田辺城城門竣工式。 6 月 1 日、田辺城資料館開館。